正義引孫炎注、初學記引劉邵注、並云、蟋蟀青蛚也、毛詩正義引李巡注云、蛬一名蟋蟀、蟋蟀青蛚也、方言云、蜻蛚、楚謂之蟋蟀、注云、卽趨織也、廣雅云、趗織、蜻蛚也、曹憲趗音足、毛詩正義引陸璣曰、蟋蟀一名蛬、一名蜻蛚、幽州人謂之趨織、太平御覽引劉芳詩義云、蟋蟀今促織也、一名蜻蛚○略中漢書食貨志注云、蟋蟀蛬也、今謂之促織、王褒傳注云、蟋蟀今之促織也、後漢書注云、蟋蟀促織也、然則蜻蛚卽上條所載促織是也、促織之可訓岐利伎利須、上條詳之、古保呂伎、亦岐利伎利須之一種、小野氏曰、促織一種有在原野晝鳴者、其聲清亮、有抑揚可聞、似促織而大、全身深油色、雌雄各三尾、不與促織雄二尾雌三尾同、京俗今猶謂之古保呂伎、以其鳴聲轉如言古呂古呂、有是名、江戸謂之衣无万古保呂伎、或加良須古保呂伎、或乃古保呂伎、然則源君訓蜻蛚爲古保呂伎非誤、但與促織別爲二物者非是、

〔類聚名義抄十蟲〕蟋蟀キリ〳〵ス　蛬キリ〳〵ス　蜻蛚コホロギ

〔下學集上、氣形〕蟋蟀（キリ〳〵ス蛬也、蛩也、シツシツ蟹也、四同、）促織（ハタテリ）蟈（コウロギ）

〔東雅二十蟲多〕促織ハタヲリメ　蜻蛚コホロギ　蟋蟀キリ〳〵ス　倭名抄に見えし所のごとき、今に至ては、古今の語、方俗の言、相混じて、分ち難し、漢人の說の如きも、亦是に同じかりけり、たゞ○中略我國に云ふ所に就きて、其名を正すべき事なり、古にハタオリメと云ひしものは、今俗にキリキリスといふ是也、古にコホロギと云ひしものは、今俗にイトゞといふ是也、古にキリ〳〵スと云ひしものは、今俗にコホロギと云ふ是也、もし漢字に就きて、其名を正しなむには、毛詩に云ふ蟋蟀は、爾雅、及び方言に見ゆる如く蛬也、促織なり蜻蛚なり、○下略

〔物類稱呼二動物〕蟋蟀こほろぎ　南都にてきり〳〵す、又ころ〳〵しと云、江戸にてこをろぎと云、武藏府中邊、及信濃奥州南部にてきり〳〵すと云、越後高田邊にてつゞりさせと云、美作にてきりごといふ、白石翁○新井君美曰、是古に云きり〳〵す也、又古こほろぎといひしは、今いふいとゞ也、